

 市長 水谷 洋一	北海道 あばしりし 網走市 「豊かな自然に ひと・もの・まちが輝く 健康都市」  市 章 	【データ】※令和7年3月1日現在 ・人 口:32,048 人 ・世帯数:17,808 世帯 ・面 積:470.84 km² ・市の花:えぞむらさきつつじ 木:かつら ・特産物:クジラ、カラフトマス、スケトウダラ、 キンキ、シラウオ、ワカサギ、シジミ、 カニ、馬鈴薯、麦、甜菜、かまぼこ ・イベント:オホーツク網走マラソン(9月) あばしりオホーツク流氷まつり(2月) 【連絡先】 ・担当:健康福祉部健康推進課(保健センター) ・電話:0152-43-8450
---	---	---

■網走市の紹介

網走市は、北海道の東部、オホーツク海に面し、世界自然遺産の知床や阿寒摩周、大雪山の3つの国立公園に囲まれた網走国定公園の中心に位置しており、知床連山を眺望できる名勝「天都山」や市街地を貫流する網走川、ラムサール条約登録湿地の「濤沸湖」をはじめとする5つの湖沼など、自然が織りなす四季折々の美しい景観を有しています。

こうした環境資源をはじめ、当市が持つさまざまな魅力を最大限に活かし、「豊かな自然にひと・もの・まちが輝く健康都市 網走」を将来像に据え、誰もが健康で安心して暮らすことのできるまちをめざしていきます。

☆市庁舎の移転

～「人と人、まちと人をつなぐ庁舎」へ～

令和7年2月25日、市役所が新庁舎に移転しました。新庁舎は、中心市街地に位置し、市民の憩いの場として市民ホールを設置するなど「人と人、まちと人をつなぐ庁舎」として新たな「まちづくりの拠点」となります。



☆保健センターも新庁舎に移転

～今まで以上に「気軽に立ち寄れるセンター」へ～

網走市保健センターも、新庁舎開設にあわせ、これまでの単独施設から新庁舎内に移転しました。

新たな保健センターとなる新庁舎2階に設置した「健診ホール」は、乳幼児健診をはじめ、市民の健康増進のためのスペースとして様々な用途に活用します。

また、市庁舎内に移転したことにより、他の用事で市役所を訪れた市民も「気軽に立ち寄れる保健センター」となります。

今後も人と人、まちと人をつなぐ庁舎を活用し、様々な形で市民の健康増進に係る取り組みを進めていきます。



☆地域医療充実の取り組み～必要な医療を確保するために～

網走市を含む北網医療圏は、北海道において医師少数区域に区分され、相対的な医師不足が課題となっています。そうした中で当市では、医師確保の施策として、開業医誘致助成に取り組み、令和2年度より4院のクリニックが開業しました。

また、医師の負担軽減及び移動困難な高齢者等が、容易に医療にアクセスできるような仕組みとして、医療とモビリティを組み合わせるオンライン診療を行う「移動型医療サービス」の実証事業を令和5年度から実施してきました。

令和7年4月から「実装事業（本格運行）」に移行し、更に事業を推進していきます。

加えて、診療に使用する専用車両の多角的利用として、令和6年9月には、毎年全国から約3,000人の参加がある「オホーツク網走マラソン」において、臨時の救護所として、専用車両を活用しました。



☆健康推進員協議会・食生活改善協議会～市民による健康づくりの推進～

網走市では、地域住民が自主的に健康づくりを推進することを目的として、「健康推進員協議会」と「食生活改善協議会」が様々なイベント等において活動しています。



「健康推進員協議会」は、令和6年度に市民参加型イベントとしてモルック大会を開催し、市民の交流と軽スポーツを通じた健康づくりに取り組みました。健康推進員はこれまで市内の町内会からの推薦により委嘱しておりましたが、令和7年度からは、町内会推薦に加え、市民公募を行い、体制の拡大を図っていきます。

「食生活改善協議会」は、年間を通じて様々な料理教室を開催し、栄養と食生活の改善を通して、市民の健康増進や食育に寄与する活動を進めています。また、令和6年度には、長年に渡り様々な創意工夫により事業を進めてきたことが認められ、農林水産省の第8回食育活動表彰で審査委員特別賞を受賞しました。



今後も、市とそれぞれの協議会で連携を図り、様々な取り組みを通じて、市民の健康増進を推進していきます。